

平成28年度岡山ESD推進協議会
岡山ESDプロジェクト活動支援助成金事業報告書

事業名 仕事体験サポーター育成研修・啓発リーフレットの作成配布

団体名 よつばの会 担当者名 森石 雅子

※活動の様子がわかる写真（データもお願いします）と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

当会は初めての場所や行動、コミュニケーションが苦手など、見た目では分かりにくい障害（主に発達障害）のある子どもたちを中心に仕事体験活動を行っている。この活動を支えている構成メンバーは子どもたちの他に、保護者、岡山市内の住民の方（仕事体験サポーター）、仕事体験を受け入れてくださる協力企業や団体の方、地元の大学生たちである。

自己肯定感を持ちにくく、支援を必要とする障害のある子どもたちが、地域の大人（サポーター）の支援を受けながら、週1回1時間の仕事体験を最長6ヶ月間、積み重ねる仕事体験活動を通じて、自分が役に立ってほめられる経験をすることにより、自分を理解し、自信を持ち、働くことや、大人になった自分の姿を思い起こすことが出来る様になる。

当会は毎月第3火曜日に岡山市内の公民館（岡輝、京山、岡西公民館のいずれか）で定例会を行っている。この定例会が、会を継続する肝となっている。参加者は子どもたち、保護者、地域のサポーター、支援者等の会員約20名で、仕事体験活動をしている子どもたちを中心に、子どもたちの職場（受け入れ企業）での成長の様子を話し合う。話し合いの中で、子どもたち自身も自分の成長に気づき、また、保護者、支援者も子どもたちの変化を実感し喜び合う。

（事業名）セミナー「“働く”ことが人と人をつなぐ～仕事体験が育むもの～」

（日時・会場）2月4日、13:30～16:00 岡山市立中央図書館 視聴覚室

（参加者対象者）地域住民、支援機関、行政機関、大学生、地域に住む障害者、保護者 など。

（参加者数）50名（うち、アンケート記入 28人）

（内容）障害者雇用を行っている企業の担当者の方にご講演いただき、障害がある方が就職して働くための企業での工夫や経験を、具体例を挙げてお話しいただいた。受け入れ企業3社の担当者の方にも、企業の紹介、仕事体験活動の内容と写真での子どもたちの様子の紹介。子どもたちを受け入れての感想や職場の中の変化について報告をしていただいた。後半は会場よりファシリテーターを出し、「障害者雇用や仕事体験の受け入れを行い、どんな風に企業内が変わったか」、また、「企業にとって良い人材とは何か？」など、いくつかテーマを挙げ、ご登壇された4名にご意見をいただいた。立場が違う人たちが一緒になって子どもたちを育てる「仕事体験活動」は、誰もが暮らしやすい地域を作るために有効な活動であるという認識がもてた貴重な研修会となった。

2. ESDの視点を取り入れたところ、ESDの視点で見直したところ

活動を紹介することで、発達障害の理解、子どもたちの認知や関わり方を広く知らせることが出来る。また、活動を啓発し続けることで、次世代に亘って、支援の必要な発達障害の子どもを社会

全体で育てていく土壌が培われ、地域で安心して暮らしていける。

支援が必要な子どもたちの仕事体験活動を通じて、サポーターとして関わる人が増え、地域の中でも理解者が増えることにより、地域の一員として子ども達の生活の基盤が出来上がっていく。「障害を持っている人」と構えず柔軟に受け入れることができ、だれもが必要で活躍できる社会を創造していくことができる。

活動紹介のリーフレットは、学生～社会人へと切れ目なくつながっていく子どもたちの成長を見守る事や、社会・地域とのつながり、人と人がつながることなどを軸に、継続して活動を行うことに重点を置いて作成した。

3. 取組の成果（参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など）

当会に参加した子ども達は、地域の信頼できるサポーターや受け入れ先の職場の人など、大人と仕事体験を通じてふれあうことにより、自己肯定感、自己受容感を育むとともに、自分たちがこの地域で安心して生きていける居場所を確保することができている。

また、子ども達の成長を通して、保護者、サポーター、支援者が、あらためて人が成長することを見守れる喜びを感じ、子ども達でなく自分自身も活躍できる場所があるということが生き甲斐につながっている。

セミナーを通して、受入れ協力企業や障害者就労に取り組んでいる企業が、障害の有無にかかわらず、働く人の個性を尊重し、特技を生かした働き方を考えることにより、これからの職場での多様な働き方の可能性を見出していることや、働く一人一人が、社会の一員として多くの人と繋がっていることもわかった。

また、セミナー参加者のアンケート結果から、活動への参加や見学の希望者が多数あることが分かり、仕事体験活動をしたい人や、サポーターに登録したいとの声もあった。今後の会の仕事体験活動の広がりが期待できる。

4. 今後の課題と展望

子ども達の特性を多くの人に知ってもらうとともに、仕事体験の細かな情報を提供し、受入れ企業として手を挙げて貰う事や、障害を持っていても会社の一員として共に働くことが出来る事を、実感して貰えるような活動にしていきたい。

サポーター育成は、サポーター単独での研修ではなく、子どもを取り巻く沢山の大人や同年代の子ども達の研修であり、一過性ではない継続した障害理解、人とのつながりを深めるものとして継続していきたい。

今年度事業で作成するリーフレットとあわせて、特に市内企業を中心に仕事体験活動の受け入れ企業の拡大につなげていくためのツールとして、積極的に活用していく予定である。

セミナー “働く” ことが人と人をつなぐ～仕事体験が育むもの～ の様子



受け入れ企業の仕事体験活動をしてみての感想 発表



青山商事 細川様、受け入れ企業 3社の方々とのパネルディスカッション

- ※ 別紙：活動紹介リーフレット 添付
- ※ 別紙：セミナーチラシ 添付
- ※ 別紙：セミナー参加者アンケート 添付